

# 4fish

作 山田裕幸

## 【登場人物】

沢谷 東高校 英語科教師

法月 西高校 数学科教師

君島 南高校 国語科教師

武藤 北高校 社会科教師

人口15万人ほどのS市には4つの高校がある。

東高、西高、北高、南高の4校である。

それぞれの高校の演劇部の顧問が、東高校に集まった。  
ある蒸し暑い日の放課後。

舞台には、すでに法月と武藤がいて談笑している。

法月 それでね、駅前居酒屋に寄ったんですよ。そしたらなんと、注文取りに来た子が、演劇部の子だったんですよ。

武藤 へえ。

法月 その子ね、普段は本当に無口でしてね、声もちっちゃいんですよ。それが、あんなにおっきい声出して

て、バイトは校則で原則禁止だとか、そんなことどうでもよくなりましたね、出るじゃないか声、って気が付くと褒めてました。

武藤 難しいですよ。声の小さな子に、声を出させるのは。少しでも強要したりすると、すぐ辞めちゃうますから。

法月 確かに。

武藤 うちもね、演劇以前の問題ばかりですから。やれ、あの子が来ないだ、やれ、あの子が消えた、連絡つかないだ、自信がないだ、やはり辞めるだ・・・だから毎年上演が終わると、それなりに達成感、ありますよ。私なりに。

法月 しかし、今年の上演はよかったですよ。なんか感動しました。

武藤 またまた、お世辞はやめてくださいよ。

法月 お世辞なんかじゃありませんよ。あれ、オリジナルでしょ。

武藤 ええ。横内って生徒が書きましてね。作文だったまともに書いたことがないって言ってたんですが、何とか説得してですね。

法月 オリジナル作品の上演をするという北高さん伝統は、素晴らしいです。これまで、ネットで公開されている台本に頼りっきりなところありましたから

ね。すぐに手に入る手軽さは認めますが、正直、レベルがねえ・・・物語的に破綻しているものも多いです。北高さんのおかげで、オリジナルが定着してきました。

武藤　　いえいえ。毎度のこと、破綻しまくりでしたけどね。うちの上演。

法月　　いやいや。その分、エネルギーがみなぎった舞台だったと思います。あのラストシーンも、よかったです。

武藤　　ありがとうございます。とりあえず、何か歌ってあげばいいかってことになりましたね。西高さんもよかったじゃないですか。なんていいましたっけ？あの主役の子。

法月　　ああ、ニコラスですか？

武藤　　そうそう、ニコラス君ね。恰好よかったなあ。一年生ですよ。彼。

法月　　ブラジル人と日本人のハーフでしてね。188センチくらいありますからね。僕ですら、こう見上げる感じですよ

武藤　　最近の高校生は、大きい子、多いですね。

法月　　いや、ほんと。しかし何で演劇部なんかに来たかなあ。あって、正直思いますよ。なんか、って言ったらだめか。バスケットか、バレーとか、普通行くでしょ。

188もあれば。

武藤 運動がダメなんでしょ、単純に。

法月 ああ、そうか。そうは見えないけど。しかし不思議です。ひと昔前は、絶対、演劇部なんか、あ、また言っちゃった、にはいないタイプですよ。

武藤 ニュータイプですね。

法月 ええ。僕らはでは、オールドタイプですな。

武藤 (笑う)

しばし間。

法月、武藤、同時に話そうとする。

法月 どうぞ、

武藤 いえ、どうぞ、どうぞ。

法月 いや、大したことじゃないので。

武藤 私も、それほど。

しばし間。

そこに、君島がやってくる。

君島 どうも、お待たせして。

法月 ああ、お疲れ様です。

君島 席は決まっていますか。

法月 どこでもいいですよ。

君島 すいません。急に会議が入っちゃって、出るのが遅く

なったもので。

法月 大丈夫ですよ。担当校の先生もまだですから。

君島 熱心な方ですよね。

間。

武藤 初めてですね、この会議。

君島 ええ。県大会に出場する代表を決めるんですよ。

武藤 そうなんですよ。毎年、夏休みに、県の文化祭がありましたね。そこで上演する高校をひとつ決めるんですよ。そしてそこでまた審査がありまして、地方大会に進む学校が決まる、と、こういう訳なんです。どうやって決めるんですか。話し合いですか。

法月 基本、担当校の先生が決めてることが多いですね。あ、つまり、決め方自体を決めるっていうか。投票とか、挙手とか、点数制とか、じゃんけんとか。

君島 じゃんけんですか。

法月 あったんですよ。どうしても決まらないことが。その年は、最終的には、じゃんけんで決めました。

武藤 あと、あれもやりましたよね。あみだくじ。

法月 ああ、ありましたね。

君島 へえ。本当、難しいですよね。演劇みたいなものに、順番つけるのって。

武藤 そうですよ。だから、毎年、結構、疲れますよ。

この会議は。生徒はどこも頑張ってますから、どの高校にも県大会で堂々と上演してもらいたい気持ちありますけど、やはり、そこを一つに絞るわけですからね。

法月 それにしても、急でした。前任の、安藤先生でしたか。あの若い、教員。

君島 でもまあ、おめでたいことですから。

武藤 教員って、妊娠もわりと計画的ですからね。うまいく学年が終わるころ、うまいくいなくなれるように、作る人多いっていうか。

法月 まあ、さすがに翌年の担任まで引き受けておいて、妊娠しましたってっていう人はあんまり聞かないけど。まあでも、あんまりこんなこと言うとな、問題になるし。

武藤 しかし、本音ではね。

君島 おめでたいことですから。

法月 この間なんて、新婚の教員に、次はお子さんだね、って声かけたら、あからさまに嫌な顔するんですよ。これ、ダメなんですってね、今。

武藤 まあ、アウトですね。

法月 もうびっくりしましてね。ダメなのかって。

武藤 マタハラですね。

法月 いったい、いくつくらい、ハラスメントあるんですかね。

武藤 だいたい30くらいですね。

法月 よくご存じですね。

武藤 つい最近、授業で、取り上げたので。

法月 さすが社会科。そんなにあったら、僕なんて、生きていけないですよ、たぶん。

武藤 これからはもう本当に大変な時代になりますよ。子どもが減り続けて、高齢者が増え続けるわけですから。超高齢化社会ってやつです。

法月 あれでしょ、そもそも結婚しないんでしょ？

武藤 50歳時点で未婚の男性が、いま、どのくらいいると思います。

君島 あ、この間テレビでみました。生涯未婚率ですよね。  
武藤 なんと28、25%。つまり、4人に一人以上が生涯独身、おひとり様ですよ。

法月 そりゃ、子どもがいなくなるわけだ。

武藤 ですからね、子どもを生んでくれる女性は、貴重なわけですよ。実際。

法月 だから、僕は生徒にも言うんですよ。女子はたくさん、子ども産めよって。そうしないと、国が立ち行かなくなるかならって。ま、半分冗談ですけど、でも半分はマジかな・・・君島先生、お子さんは？

君島 あ、ええ、一応。

法月 一応って、なんですか。

君島 女の子が二人。

法月 いいなあ、うちは、二人とも男ですよ。

君島 そうですか。うちも、男の子がいたら、どうだったかなあって思いますよ。

法月 交換します？

君島 え？

法月 冗談ですよ、冗談。

武藤 今日、飲み会、大丈夫ですか？

君島 ええ。車、学校に置いてきました。

武藤 毎年、この会議の後、顧問で一席設けるのが恒例でしてね。

君島 そうですか。

武藤 遅いな、沢谷先生。

間。

武藤 南高さんの舞台、よかったですよ。「大蛇と与平」でしたっけ？

君島 ありがとうございます。

武藤 二年連続で同じ演目にチャレンジするなんて珍しい。



君島 下級生たちが、先輩たちの上演をみて、自分たちもやりたいって言いだしましてね。

武藤 地元の民話を題材にするなんて、渋すぎます。

君島 ありがとうございます。三上っていう生徒が書いたんですけど、どうしてもリベンジしたいって、後輩たちが言い始めましてね。

武藤 あの大蛇には、本物の魂が宿っているようでした。あの迫力は、プロの劇団でも、なかなか出せないんじゃないですか。文化会館の舞台が狭く感じましたよ。大道具だってねえ。

君島 工務店の息子がいましてね、生徒に。いろいろ、協力してくれて、助かりました。

武藤 昨年の上演もよかったですけど、今年の方が、やはり迫力があつたなあ。感動しました。

法月 あの・・・

武藤 はい。

法月 いや実はね、うちの学校、今年、創立100周年なんですよね。

武藤 おめでとうございます。

君島 おめでとうございます。

法月 ええ。それでね、もしよかったら、でいいんですけど、任せてもらえないかな、と思うんですが。

君島 何をですか？

法月 その、代表を。

君島 え？

法月 どうでしょう。100周年なんですよ。

君島 はあ。

法月 その記念行事の担当にもなってましてね。

武藤 それは大変ですね。

法月 わが校が、運動部だけじゃなく、文化系の部活も活躍していることを、アピールできる絶好の機会だと思いましてね。

武藤 うちはまだ、実力的にも、今年は難しいとは思ってますけど。

法月 それに、おとしでしたっけ。県大会、進まれましたよね。

武藤 ええ。あの年は、奇跡的でした。

法月 うちは、結構、間が空いてましてね・・・前回、県大会に出たのは、まだ僕が前任校にいた頃みたいでして。

武藤 ずいぶん前なんですな。それじゃあ。

法月 そうなんですよ。ニコラス、よかったですよ？君島先生。

君島 ええ、そうですね。

法月 188センチあるんですよ。彼。一年なのに。

君島 確かに、素晴らしい上演だと思いました。

法月 南高さんは、野球部がいいんでしょう、今年は。なんでも、すごいピッチャーがいるって聞きました。うちの野球部の顧問に。

君島 ああ、西ですか。西飛馬（にしひゅうま）

法月 飛馬っていうんですか。

君島 すごい名前でしょ。

法月 なんでも150キロを平気で出すとか。うちの野球部、先日組まれた練習試合で、ヒット一本も打てなかったらしいですよ。なんでも、ボールが手から離れた瞬間に、もうキャッチャーが取ってるんだそうです。ボールを。甲子園も夢じゃないんじゃないですか。

君島 なかなか悪くないそうです。うちの野球部の顧問も言っていました。最近、騒音問題で、練習場の確保が大変らしいんですけどね。

法月 うち、100周年なんで。

君島 ええ。

法月 甲子園行けるなら、いいでしょう。

君島 勝負事ですからねえ。

法月 しかし西君がいるんでしょう。

武藤 西高さん、ずっと県大会出てないですね。高校生の部活動ですから、あまり代表が偏りすぎるもの問題ですし……とくに最近は、東高さんが続いて

ますしね。

法月　ですから、まあ、そういうことを考えても、今年はウチに任せてもらえたらな、と思ひまして。まあ、ここで、こういうことを話すのは、少し良心の呵責というんですかね・・・ないわけじゃあないんですが、ひとつ、慮（おもんばかり）っていただければ。忬度じゃないですよ。慮っていただければと。

そこに、沢谷がやってくる。

沢谷　すみません、遅れて。進路の会議が伸びてしまつて。今年は三年の学年主任なものですから、目の回るような忙しさで。

法月　いえ、構いませんよ。今ね、君島先生にね、いろいろ説明しておりました。

沢谷　ありがとうございます。今日も蒸しますねえ。

一同　ええ、本当ね。

沢谷　先日は本当にお疲れ様でした。

一同　お疲れ様でした。

沢谷　じゃあ、始めましょうか。ええ、今日はお忙しところ、お集まりくださいまして、ありがとうございます。今年度の代表校決定のための会議を、これから始めたいと思います。それでは、法月先生、一言、

いただけですか。

法月 わかりました。えー、みなさん、どうも。今年も、無事に発表会を終えることができたのも、ひとえに、ここにいらっしやる顧問の先生方のご尽力のおかげかと思えます。県大会には、ひとつの学校しか進めませんが、どの学校も引き続き、精力的な活動を期待しております。以上です。

沢谷 ありがとうございます。それでは、まず例年通り、各学校の上演作品について、生徒の感想と合わせて意見交換をし、最後に代表校を決めたいと思います。せっかくですから、私たち顧問の学びの場にもなるといいと思います。同じ顧問としてお互いをリスペクトしながらも忌憚なき意見を交換できればと思います。それでは、南高さんの「大蛇と与平」からいきましようか。よろしいですか。

君島 はい。よろしく願います。

沢谷 ではまず生徒の感想をご報告いただけますでしょうか。法月先生からでいいですか？

法月 わかりました。南高さんの「大蛇と与平」生徒の感想です。大蛇の衣装がすごかった／大蛇があれほど大きなものだとは思わなかった／地元こんな民話があったとは驚きだ／与平役の声がよく出ていた／村人たちの演技がよかった／大蛇が予想以上

に大蛇だった／こんなところですよ。

沢谷 ありがとうございます。では引き続き、北高さん、  
お願いします。武藤先生。

武藤 はい。うちの生徒の感想です。大蛇がでかかった／  
与平がよかった／音響がよかった／迫力があつた／  
／民話って格好いい／おーいお茶／発声がよかつた／  
大蛇がでかかった／以上です。

沢谷 ありがとうございます。では、うちの生徒の感想です。  
大蛇と与平の対立から、共存にいたる物語は、  
壮大であり現代社会にも通じるものを感じられた  
／民話を題材にしながらも、ここまで現代風にする  
ことができるなんて驚きだ／共存、多様性、グロー  
バリゼーションなど、現代性を強く感じさせる力作  
であつた／村人たちのアンサンブルが素晴らしく、  
大蛇と与平の物語を一層際立たせていたと思う／  
台本にスキがなく、高校生が書いたものとは思えな  
かつた／人間とは何か、という根源的な問いかけを  
感じた／以上です。

君島 さすが東高さん。生徒の感想がしっかりしてますね  
え。勉強になります。

沢谷 それでは先生方、南高さんの「大蛇と与平」につい  
て、それぞれご意見をお願いします。

法月 昨年もそうでしたが、やはり、台本がしっかりして

るなあ、と思いました。特にクライマックスに向か  
つての、緊張感の高まりっていうんですか、改めて  
いい作品だな、と思いました。

君島 ありがとうございます。

沢谷 武藤先生は。

武藤 私も、今年の上演は、去年よりもずいぶん洗練され  
ていたし、より現代的になっていたと思います。同  
じ台本でも演出次第でこのようにもできるんだと、  
演劇の可能性を感じました。勉強になりました。

法月 ただ、あれですよ。少し、役者の声が出ていなか  
ったのが気になったかなあ。

君島 そうですね。確かに、数名、発声がよくない生徒が  
いました。

法月 あと音響のレベルが全体的に大きいかなって思  
いましたね。思い切って無い方がいいかも、って場  
面がいくつかあるように思われました。

君島 (メモを取る)

法月 これは全体の課題だと思うんですが、リハーサルの  
時間がどうしても限られるので、そういったスタッ  
フワークの部分には、われわれ顧問がもう少し介  
入した方が、全体の質が高くなるように思います。照  
明はまあ、あれとして、音響なんかは、すぐによく  
なると思うので。

君島 (メモを取る)

沢谷 私も、とてもよい上演だと思いました。何より、先輩の台本を使って、もう一度上演したいと思ったというのが、とても素晴らしいことじゃないか、と思いました。それだけに、本番の舞台にもエネルギーがみなぎっていましたし、生徒のいきいきした演技に、心を動かされました。もちろん、発声や音響の細かいミスや修正点はあるかとは思いますが、それを凌駕する生徒たちの情熱に感動しました。どうもありがとうございます。

沢谷 法月先生もおっしゃっていましたが、台本が素晴らしいですね。民話をあれだけ現代風にアレンジするのは、大変なことですよ。

君島 書いたのは、三上って生徒なんですがね。今度、言っておきます。

沢谷 ほかに、何か、補足されたいご意見、ございますか。

武藤 じゃあ、いいですか。

沢谷 どうぞ。

武藤 選曲のことなんですが、今時の「ポップなどは使わない方がいいように思いました。どうしても、イメージがね、強すぎるかなと。音楽のね。

君島 僕も通し稽古を観て思ったんですけど、どこまで顧問が関わっているものか、わからないんですよ。



みなさん、どうされていますか。

武藤　うちはとにかく、生徒が最後までバラバラにならないでやり通すのが目標みたいなどころありますから。だから、わりと私も部活には出て、一緒になつて考えたりしています。

君島　先生はどんなスタンスですか。

法月　僕は基本、何も口出しはしない主義でして。

君島　そうですか。じゃあ、台本選びとか、テーマ選びなども、生徒ですか。

法月　まあ、基本的には、ですね。どうしてもうまくいかないときは、生徒から相談に来ますしね。

君島　なるほど。

沢谷　私も基本的には、口出しはしないことにしています。ただし、作品を無難なところに帰着させようとしたり、考えることをやめようとしたとき、生徒たちを鼓舞することが、顧問の役目かなあ、なんて思ったりしています。

君島　技術的なことはどうですか。

沢谷　それは何も気にしていません。プロを目指しているわけではありませんし、私は生徒に、演技の技術を教えることには、意味を感じませんから。

君島　しかし、うちの野球部は、外部から社会人野球の経験者をコーチに呼んで、ずいぶん強くなりました。

演劇もそういうったやり方はありませんか。

沢谷 もちろん、専門家を呼べば違うでしょう。しかし現実的には、予算の問題もありますし。

君島 いやね、僕、演劇部の顧問になることになって、演技について書かれた本を読んでみたんです。「何も  
ない空間って」本、ご存じですか。

沢谷 ピーターブルックですね。

君島 あと「俳優の仕事」っていう、やつも。

沢谷 スタニスラフスキーですね。全部読んだんですか？

君島 書いてある内容はよくわかりませんが、一応、  
沢谷 すごい。私なんて何度もトライしたけど、いまだに  
読めてませんよ。まずは先生自身が、いろいろなお  
芝居をご覧になるのがいいと思いますよ。

君島 やっぱり東京ですかね。

沢谷 そうですねえ。やっぱり、劇団の数も、公演の数も、  
ダントツですからねえ。

君島 わかりました、時間を見つけて、いろいろ見てみた  
いと思います。

沢谷 もし行かれるようでしたら、いつでも声かけてくだ  
さいね。私も昔の仲間に聞いてみたりしますの  
で。私、学生の頃やってたんですよ、演劇を、東京で。  
少し。

君島 そうでしたか。僕も大学は東京だったんですけど、

友人がどっぷりはまってて、大学の講堂の裏に大きいテント張って、やってましたよ。

沢谷 あ、もしかしたら、同じ大学かもしれませぬ。私。先生と。

君島 あ、そうですか。

沢谷 ええ。

君島 それは、それは。

法月 次、行きましようか。

沢谷 そうですね。それでは、よろしいでしょうか。南高さんの「大蛇と与平」については。

法月 大丈夫です。

武藤 大丈夫です。

君島 ありがとうございます。大変、勉強になりました。

沢谷 それでは、次。北高さんの「日の丸とプロペラ」に移りましようか。

武藤 よろしくお願ひします。

法月 じゃあ、これもうちの生徒の感想から紹介します。戦争はよくないと思った／戦争は悲惨だと思った／戦争は二度としてはいけないと思った／戦争はもうごめんだ／戦争は悲劇しか生まない／戦争はいけない／戦争はだめだ／以上です。

沢谷 確かに戦争は二度としては、なりませんよね。では、君島先生、よろしいでしょうか。

君島 わかりました。生徒の感想ですよね。

沢谷 はい、事前をお願いした生徒のアンケートを紹介してください。

君島 わかりました。北高さんの「日の丸とプロペラ」と・・・ええ、戦争は悲惨だと思った／戦争はよくないと思った／戦争は二度としてはいけないと思いました／ラストシーンの歌がよかった／泣けた／戦争にはいきたくない／戦争にならないように頑張る／憲法九条は違憲だから今すぐ変えるべきだと思う／北朝鮮が攻めてきても大丈夫のように自衛隊に頑張って欲しい／南京大虐殺はなかった／日本の朝鮮半島の植民地支配は結果としてはよかった／戦争になったらすぐ逃げる／以上です

沢谷 この国の右傾化が生徒にまで及んでいるのかと思うと驚きです。では本校の生徒の感想です。戦争の悲惨さはもちろん、その不条理性が感じられてよかったと思う／戦争についてはもちろんだが男は戦場へ行き、女がそれを懸命に支えるというのが、いかにも古い感じがした／戦争を描くならば、批判性が必要だと思う。戦争は悲惨であるというメッセージをただ投げかけられても困るし、上演の意義を感じられない／独自性が欲しい。知っていることが多かった。／演劇の一番の優位性は、観客の想像力に

頼る、というところにあると思うが、一から一〇まですべてを舞台でやろうとするところに無理があるように思った／ジャングルの中での撃ち合いを舞台でやるのは、やはり大変だと思った・・・以上です。

法月 僕はああいう上演というのは、あって、よかったと思うな。現に、うちの生徒は、戦争なんて遠い話だと思っていたのに、北高さんの上演を見て、よりリアルに体験できたと思うし。

君島 確かに、そういう面はありますよね。なかなか、言葉で説明したって、伝わりませんから。ずいぶん前のことですし。

法月 そりゃね、僕だって東高さんの生徒さんみたいに思わなくもないですよ。だけど北高さんの生徒さんが、調べて書いて、あれだけのものを上演された、というのはおおいに評価されるべきでしょう。

武藤 ありがとうございます。

法月 しかしラスト近くの銃声の効果音は、残念でしたね。

武藤 音響の生徒も、ずいぶん練習したんですけどね。銃を空に向けて一発撃って、暗転、となるはずだったんですけど、その少し前に、人生史上最強の睡魔（本人談）が襲ってきたようで、あわてて照明の子が起こしたそうなんですけど、間に合わなかったと。

法月　　せめてキャストの子が、うまく乗り切ってくれたらよかったんですが、自分で銃声を「バッキューーン」なんて言うことなかったんですよ。思わず、客席から失笑が漏れてました。

武藤　　せめて「ズッキューーン」だったらよかったですし  
ようか。

君島　　「ドツキューーン」じゃないですかね。

武藤　　まあ、その辺も含めて、実にウチらしい上演でした。

君島　　ラストはよかったですよ、誰のアイディアですか。

武藤　　私が練習のとき歌ってたら、演出の生徒が聞いてきましてね。それは、なんという歌ですか。その子、知らなかったんですよ。あの歌。

君島　　へー。

法月　　あの歌を知らないっていうのは、よっぽどだね。

武藤　　ええ・・・

法月、「ラジオ体操の歌」を歌う。

君島、武藤、それに続く。

武藤　　先生、この歌、芝居のラストで歌うよ！俺、励まされたよ！まさしく希望の歌だ！って感動しました  
ね。

君島　　いい歌だなあ。戦死した父親を偲んで、子どもたちが歌うんだ。新しい朝が来た、希望の朝がって。

沢谷　でも、この歌って戦後なんですよ、できたの。ですから、玉音放送を聞きながら、この歌を登場人物たちが歌うのは、本当はおかしいんですよ。

武藤　そうなんですか。いや、社会科の教員としてお恥ずかしいです。基本的な時代考証を怠ってしまった。

沢谷　むしろ私は、生徒の反応が、画一的で不安を覚えま  
すね。戦争を、悲惨だ、二度とやるべきではない、  
と条件反射のように形容する生徒たちに、戦後教育  
が果たしてうまくいったのか、疑問を感じます。模  
範解答をつい求めてしまう生徒たちが、果たして今  
後、社会を生きていくことができるのか、不安なん  
です。あと、これは生徒も書いていましたけど、ど  
うしても男は戦場で女は銃後の支えをするという、  
あの物語は、個人的には、もういいんじゃないかな  
って思いましたね。

武藤　うちの生徒は、日本が太平洋戦争でどの国と戦った  
のかも知らない子ばかりなんです。原子爆弾を落  
つことした国がどこかも知らない。アメリカだって  
言ったら、すごく驚いていましたよ。そんな生徒ば  
かりなんですよ。

沢谷　そもそも、かつて原子爆弾を落とした国の大統領と  
へらへら笑いながら握手してる総理大臣をみて、多  
くの国民はありがたがっているんですから、仕方あ

りませんよ。

法月 そのお話と、北高さんの上演作品が、いったいどのようなにして結びつくのでしょうか。

沢谷 ですから、高校生が画一的なうわべだけの感想を述べたり、戦争というものをマッチョな男と、支える女という構図でしか描けないことに、私たちの教員の責任を感じたということです。

法月 では、今度は、女性が前線に立てばいいじゃないですか。

君島 まあまあ。ここは、演劇部の顧問会ですから。そういった話は、また別にやれば、どうですか。ねえ。いやしかし、表現というのは、結局はそういった思想の問題になるわけでしょう。違いますか。

法月 だって、高校生ですよ。

沢谷 高校生だって考えます。いや、高校生にこそ、もっと複雑でデコボコしたものに体当たりすべきです。平坦で、用意された道を進むことだけを、奨励してはなりません。

法月 正論ですね。

沢谷 どういう意味ですか。

法月 言葉通りです。正論だな、と。

沢谷 いけませんか。

法月 いや、いいですよ。別に。しかし、世の中は正論だ



けじゃ、進まないことも、あるってことです。

君島 戦争を扱うっていうのは、とても難しいことですよね。戦争には、加害者と被害者がいる。どちらの立場で、何を描くのかによって、全然違ったものになりますから。しかし生徒が、自分たちで調べて物語にして、戦争に触れたというのは、大きなことだと思います。それはおおいに評価すべきでしょう。

法月 僕も賛成です。それに、ここはあくまで上演について話す場であって、描かれたものについて、優劣を付ける場ではないと思います。違いますか。

沢谷 もちろんわかります。しかし、私は、この場が、私たち顧問の学びの場になればいいと思っています。それはもちろんそうです。つまりは、上演の成果を向上させればいいわけでしょう。

沢谷 では、上演の成果とは何か、という議論になりませんか。つまり、何をもって優れているか。

法月 堂々巡りですな。とにかく、沢谷先生は、北高の上演が気に食わなかったということでしょう。

沢谷 違いますよ。すばらしかったですよ。

法月 じゃあなんですか。高校生相手に、あんまり難しいことを言っても仕方ないでしょう。

沢谷 ですから、その姿勢を批判しているんです。難しいことを、すぐに避けてはいけないと思います。

法月 何かありましたか？進路の会議で。

沢谷 はい？

法月 いえ、なんでも。

武藤 （しばし間の後）ありがとうございました。作品は、稚拙でしたし、中身もペラペラでしたけど、それなりに大変だったので、ここまでみなさんに、しっかりみていただけて、嬉しいです。ありがとうございます。精進します。

君島 いえいえ、こちらこそ、いい作品をありがとうございます。います。

武藤 ……次、行ってください。飲み会もありますし、わかりました。

法月 うちからでいいですよ。東高さんは、最後で。

沢谷 わかりました。では西高さんの「True friends」です。では、南高さんから、お願いします。

君島 はい……西高さんの「True friends」主役の人の演技がすごかった／男役をやっている女子が男にしか見えなかった／わかりやすかった／音響がよかった／声がよく出ていた／男役がうまかった／大道具が凝っていたと思う／友情の大切さ、素晴らしさが描かれていた／人生感が変わった／男役がすごかった／50分が一瞬だった／また観たい、再演を希望します／以上です。

武藤 絶賛ですね。

君島 とても評判よかったです。

沢谷 ありがとうございます。では、続いて、北高さん、  
お願いします。

武藤 うちも、かなり評判よかったですね。演劇とは思えないくらいだった／俺でもわかった／寝ててもわかった／演劇は難しいと思っていたけどわかりやすかった／友情について考えた／おーいお茶／

法月 もうそれは、読まなくてもいいでしょう。

武藤 そうですね・・・青春っていいなと思った／BGMが全部恰好いい／セリフがよく聞こえた／技術的にもよかった／以上です。

沢谷 ありがとうございます。では、本校の生徒たちの感想です。

法月 お手柔らかに、お願いしますよ。

沢谷 ストーリーがわかりやすくよかった／登場人物たちの悩みが、いかにも、と、いったものばかりで、平面的に感じた／進路の問題は重要だが、急に大きな声で言い争いを始めるのはリアリティを感じられなかった／キャストがうまかった／ベータ役の女子の演技がよかった／ニコラス君がよかった／ニコラス君にドキドキした／とにかく楽しめる舞台だった／セリフ、動き、などがとてもはつきりし

ていて、頭を空っぽにして楽しめた／考える必要がなくて、笑っているうちに終わった／以上です。

法月 ありがとうございます。

武藤 今年の西高は、急にレベルアップしましたね。等身大の高校生が描かれていたし、演技も素晴らしかったと思います。

法月 いやあ僕は何もしていませんって。

武藤 それで、あのレベルの作品ができるなんて、さすが伝統の西高。

法月 ありがとうございます。

君島 確かにとても面白かったです。夢をあきらめないこととの大切さ、友情の大切さが、よく伝わってきました。今思い出すだけでも、感動して泣いてしまいました。うです。

法月 ありがとうございます。

武藤 登場人物を、アルファ、ベータ、ガンマにしたのは、法月先生が、数学の教師だからでしょうか。

法月 ああ、そうかもしれません。

武藤 いやあ、本当によかったなあ。

沢谷 なぜベータ役を女子が演じたのでしょうか。

法月 いろいろ事情がありましたね。なかなか苦労したようです。男になりきるためにいろいろと。

沢谷 例えば。

法月 ちよっとした仕草とか、シルエットなどにも気を使

ったようです。男っぽく見えるための演技とでも言うんでしょうか。そういう研究をずいぶんしたようです。

武藤 確かに、すごく男ぽかったですよ。歩き方とかも、かなり練習されたんじゃないでしょうか。

法月 全体稽古の後も、男ぽっさの追求のために、相当稽古したようです。

武藤 大変ですもんね、女子が男っぽく見せるのは。

沢谷 私は、見ていて、すごく違和感がありましたね。

法月 そりゃ、女子ですからね。

沢谷 そうではなく、あのような仕草をすると男っぽく見える、という価値観がです。第一、男っぽく見えるかどうかは、演技でもなんでもありません。男っぽいとは、なんですか。あのような仕草をする人なんて、現実的にはいないでしょう。

法月 それは、女性が男性の役をやることへの批判でしうか。あの生徒がずいぶん苦労して作り上げた役です。

沢谷 私は彼女が女性であることを無理やり押さえつけたうえで、男っぽく見えるように努力しているように感じられました。あの生徒さんは男として、あの場にいることを強要していました。

法月 おしゃっている意味がわかりません。だって、それは、彼女が自ら望んであの役をやったのですから、強要されているわけではありません。

沢谷 私は、多くの高校生が観ている舞台上で、あのよう  
に無自覚に性を混同させるのは危険だと思うので  
す。みなさんは、LGBTQ、いわゆる性的マイノリ  
ティーの方の割合は、どのくらいだと思われ  
ますか。だいたい8%くらいいらっしゃる、と  
されています。これはほぼ左利きの方と同じ割  
合です。いませんか、みなさんの周りに、ひと  
りくらい、左利きの方。

君島 いますいます。

武藤 主人が左利きですね。

沢谷 高校演劇の客席には、性的マイノリティーの子  
たちが、それなりの数います。そのような生徒  
たちが、舞台上であのような演技をみたら、い  
つたいたと思うかと思うんです。男らしさ女  
らしさを、あのような形で示されたら、苦し  
む生徒はいませんか。ちょっと待ってください。  
そのようなことを持ち出されますと、何も表  
現できなくなりますよ。そのような政治的正し  
さを持ち出されるのは、やめた方がいいと思  
います。

沢谷 教育の現場ですから。偏見を助長しませ  
んか。

法月 あのね、誰にも平等で、正しい表現な  
んてあるわけ

ないでしょう。作品をみて、それが好きな人も、嫌いな人も、不快な人も、いるでしょう。いいがかりですよ。それは。

沢谷 わかりますよ。それぞれ事情がありますから部員の人数が足りないなどの理由もあるのはわかります。しかし、客席はもとより、演じることを求められた部員の中にも、性的マイノリティーの生徒だっているかもしれないんです。少なくとも、男らしさ、女らしさの強要は、表現の現場からは、排除すべきだと思います。

法月 またずいぶん、「うがった」見方ですね。

君島 あ、先生、「うがった」の本来の意味、知ってます？

法月 あれでしょ、疑って見るとか、そういう意味じゃないの？

君島 違うんですよ。物事の本質を的確に見る、という意味なんです。本来。つまり「うがった」見方と言うとですね、本質を的確に見ていきますね、という、まったく逆の意味になるわけです。

武藤 へーへーへー（とボタンを押すようなしぐさ）

法月 へーへーへーへー（と同じく）

君島 国語教育界では、有名な誤用ですね。

武藤 知りませんでした。さすがは国語科。

法月 勉強になります

武藤 これ、いいな・・・

法月 へーへーボタン？

武藤 ほら、今の生徒って、こっちが何言っても表情変えないでしょ。だけど、後でアンケート取ったりすると、先生の授業、面白かったです、とか書いてたりしてて。かといって、よく聞いていると思ってた生徒が、赤点取ったり。

法月 ああ、よくありますね。

武藤 だからこのボタンを机の下につけといて、「へー」と思ったら、押させるんです。そしたら、わかるじゃないですか反応が。こちらも、やる気もわくじゃないですか、反応してもらえると。

法月 あ、いいかも。

武藤 ね。

法月 へーへーへー

武藤 へーへーへー

法月 いいですね。

武藤 いやあ、発明かもしれないな。へーへーボタン。

君島 「天地無用」って、「上下を気にしないでよい」ということじゃなくて、「上下を逆にしてはいけない」って意味なんですよ。

法月 それは、知ってます。

武藤 私も。



法月 いまのは、0へーですね。

君島 じゃあ「なし崩し」にするって、わかりますか。

法月 あれでしょ、なかったことにするって意味、じゃないんでしょ。

君島 ええ。

武藤 どういう意味ですか？

君島 本来はですね、

沢谷 少しずつ返していくって意味じゃないですか？

君島 その通りです。

法月 へーへーへーへー

武藤 へーへーへーへー

沢谷 たくさんの仕事をなし崩しで片づけるとか、言いません？

君島 ピンポンです！

沢谷 亡くなった母が、よく使ってました。

君島 言葉は変わりますからね。時代とともに。

武藤 へーへー

法月 なんか、あれですね。へーへーボタンは無知を強調するボタンでもあるかもしれない。

君島 そんなことはありません。実は恥ずかしながら、僕も知りませんでしたから。言葉はまさに、生ものですよ。

法月 でも、生徒のへーへーボタンは、いいと思いますよ。

先生。

武藤 どうも。いつか、やってみます。

法月 ええ、ぜひ。

しばし間。

沢谷 すみませんでした。いち意見として長々と述べさせていただきましたが、上演は本当に素晴らしいものだったと思います。法月先生、お疲れ様でした。

法月 いや僕は何もしてませんので。

沢谷 他にございませんか。西高さんの「True friends」について。

武藤 特には。

君島 僕も。素晴らしかったです。「True friends」

法月 ありがとうございます。生徒にも伝えます。

沢谷 それでは、西高さんは、ここまでにしましょう。

法月 ちょっと、トイレ、いいですか。

沢谷 出てまっすぐ行かれると、職員用のトイレがありますので。

法月 わかりました。

法月、退場。

君島 まさか、左利きの人と同じくらいいるとは、知りませ

んでした。授業でも、意識していかなければなりませんね。

沢谷 すいません、なんかめんどくさくて。

君島 いえいえ。

君島 実は、最近になって、男湯に女性のスタッフが掃除に来たりするのに、ちょっと、違和感を覚えるようになりましてね。昔は全然気にならなかったんですけど。

沢谷 え？どういうことですか。

君島 いやね、温泉とか行くと、女性のスタッフが結構、入ってくるんですよ。脱衣所とか、浴室とか。これ、逆だったら、いったいどうなるんだろうかって、時々思うようになって。

武藤 そうなんですか、知りませんでした。

君島 娘と一緒にお風呂に入るのも、アメリカなんかでは性的虐待になるみたいですし。

沢谷 まだまだおかしなところありますね。最近、おかしなことをおかしいと言うだけで、メンドクサイやつだつて言われること多くて。私はテレビほとんどテレビみないんですけど、たまにみると、みんなへらへら笑っているでしょう。しかも何を笑っているかって、だいたいセクハラとか、いじめをみんなで作ってる。

君島 人気商売ですから、なかなか批判とか言えないでし  
しょうね。へらへら笑ってた方が楽ですし。

法月、トイレから戻ってくる。

法月 いやあ、さすがに、きちんとしてますね、東高の生  
徒さんは。すれ違った生徒が「こんにちは」ってあ  
いさつしてきましたよ。学力と親の年収に相関関係  
がある、なんていいいますからね。やっぱり、しっか  
りした家庭のお子さんが多いんでしょう。

武藤 うちなんて、三者面談すると、まあ、信じられない  
ような保護者いますからね、うちなんか。この親に、  
この子あり、なんて思うこともしばしばですよ。

法月 本当、親子って似ますよねえ。特に、仕草が。

武藤 わかります。

法月 ねえ。

沢谷 それでは、再開しましょうか。

法月 そうですね。

武藤 親睦会もありますし。

沢谷 それでは、わが校の作品についてお願いできますで  
しょうか。

法月 じゃあ、東高さんの「愚か者たちの国」についてで  
すね。生徒の感想を読みますね。よくわからなかつ

た／テーマは何かわからなかった／言いたいことがわからなかった／ストーリーがわかりにくかった／セリフが難しかった／何をやりたのかわからなかった／難解だった／難しかった／以上です。えっと、じゃあ、生徒の感想です・・・言いたいことがよくわからなかった／難しいと感じた／小道具と大道具はよかった／言葉が難しかった／悪魔に追いかけられた人たちが可哀そうだった／おいお茶／結局なにかわからなかった／よくわからなかった／以上です。

沢谷 君島先生、お願いします。

君島 うちも、みなさんとだいたい同じで、作品のテーマがよくわからなかった／追い込まれた人々との対立がよくわからなかった／作者の人に作品のテーマを聞きたい／言いたいことがよくわからなかった・・・以上です。

沢谷 ありがとうございます。

武藤 物語はSFっぽく、よくできていたように思うのですが・・・生徒には難しく感じたようですね。

法月 僕も嫌いなジャンルじゃないですが・・・  
君島 そんなにわかりにくかったですかね。

武藤 まあ、うちの生徒は、もともと、読解力が乏しいですからね。

法月 わかりにくいというか、はっきりしたストーリーがないじゃないですか。起承転結っていうんですかね。

いきなりはじまって、悪魔が出てきて、場面もコロコロ変わりますから。

武藤 同感です。やはり今の子は、まず、わかりやすくないと、と思いました。

沢谷 わかりにくかったですか？

武藤 まあ、私たちはね、大人ですから。

沢谷 先生も？

法月 多少ね、わかりにくい箇所もあったかと。わからないと、生徒には受けないですよ。

君島 僕は結構、分かりやすかったと思います。悪魔に追われた人々が、長い旅の最後に、新しい国の人々と出会います。新しい国の人々は、彼らをバケモノ扱いし、入国を拒否、貨幣価値が崩壊し、国全体が廃墟と化した近未来の物語でした。結局、あれですよ。悪魔っていうのは、原発ですよ。つまり、そこから逃げた人と、逃げなかった人の対立が描かれているわけです。

武藤 あ、

法月 あ、

君島 あの台本書いた生徒は、相当調べたんじゃないですか。あの事故のことを。しかもタイトルが「愚か者

たちの国」ですからね。ずいぶん、踏み込んだ作品です。

沢谷 これ書いた生徒、福島の子でしてね、あの年に、親類を頼って家族で引越してきたそうなんです。詳しくは知りませんが、どうも津波で家族の誰かが亡くなったみたいで・・・ただ他の生徒の中には、すでに3・11のことを知らない生徒もいたりして・・・びっくりですよ。

法月 まあ、気持ちはわかりますけどね、もし、あの劇がそういった内容だとするとですよ、ちょっと思い込みが激しいのかもしれない。追われた人たちは、政府の言うことを信じて行動したわけでしょう。

沢谷 ええ。

法月 その結果、バケモノになったとすれば、つまりは政府が嘘をついているということになる。徹底的に、叩いてましたものね。新しい国の人たちを。ちょっと問題だなあ。

沢谷 何が問題なんでしょうか。

法月 だって、高校生ですよ。高校生が政府を批判とかしちゃだめでしょう。

沢谷 そうなんですか。

法月 もしですよ、東高さんの作品が、県大会に出てですよ、お偉方の目に止まってですね、面倒なことにな

ったら、どうするんですか。補助金だって、もらえなくなるかもしれないでしょう。そしたら、来年の発表会は、いったいどうなるんですか。予算、ギリギリですよ。

沢谷 そんなに面倒なことがおきますか。

法月 私たちは、教員なんですから。まずは、生徒に高校生らしさを求めるのは当然でしょう。

沢谷 高校生に批判は許されませんか。

法月 第一、わかりやすいものじゃないと、伝わらないでしょう。

沢谷 すみません。正直、ここまで、わかりにくいと言われたのは、驚きでした。でも確かにそうですよね。今の高校生にとって、3・11はもう「昔」の出来事、ですものね。その前提がなければ、あの物語は、確かにわかりやすいものでは、なかったかもしれない。生徒の感想を聞いて、今、愕然としているところです。あれほどまでのこの国の出来事が、ここまで若い世代に伝わっていないのか、と。しかし「わかりにくい」ことや「理解できない」を理由にして「わかりやすい」ものや「理解できる」ものばかりになったら、ダメなんじゃないでしょうか。わかるものだけを表現していたら、表現って、そもそも何ですか。観客は何を見るんですか。演劇は、必要で



すか。私は、そういったものを、観客と一緒に考えることが、演劇の役割だと思うのですが。

法月 先生は、生徒に「わかりやすい」授業をしませんか。

沢谷 授業と演劇は違うんじゃないでしょうか。

法月 本質的には同じでしょう・・・わかりやすいのが一番じゃあないですか。

沢谷 演劇は、表現です。見えないものを見ようとする行為です。確かに、わかりやすさは、大切なファクターだと思います。しかし、わからないからダメだと言うのは、難しいのは駄目だ、というのは、それこそ、自ら可能性を放棄するようなものだと思います。

法月 なんだか焦点がずれています。確かに福島のごことは、書いた生徒にとっては、重要な題材かもしれませんが、今は、まずは代表を決めなくてはいけません。演劇を、自らの主義や主張の発散の場にしてはいけません。

沢谷 私は、法月先生の、わかるのが一番だ、というご意見について意見を述べています。

法月 今は、代表校を決めています。

沢谷 でも世の中、わからないこと多くないですか。もしも、わかることが重要であるなら、この世の中そのものを否定することにはならないか、と思うんです。わからないことを考えることは、表現する一番の動

機になると思っています。これは、高校演劇だって同じだと思います。

法月 いやいや。そんな難しいことを議論しているつもりはないんですよ。ただ、今回の東高さんの作品は、僕には推せない、ということなんです。それにね、あと観客が自分で考えてくれ、みたいなのもね、わかるんですけど、もう少しはっきりした結論が欲しいですね。最近の子、考えるのが苦手ですから。ねえ、武藤先生。

武藤 え？ああ、そうですね。

沢谷 ご意見、ありがとうございます。

しばらく間。

法月 どうです。この辺で、一度、決を採りませんか。親睦会もあるしねえ。どうですか。

沢谷 そうですか。では、そうしましょう。投票用紙を作っておきましたので、今年の代表にふさわしいと思われる高校の名前のところに、○印をつけてください。ご自分の学校はもちろん除外してください。よろしいですか。

君島 無記名投票ですか。

沢谷 はい。

君島 多数決でいいんですかね？4名ですから、最高で3票ですよ。3票入ったら無条件で決まりでいいと思います。2票、1票、1票とか、もしくは、2票ずつ1票ずつとか。そういう場合、どうするか、あらかじめ決めておいた方がいいじゃないでしょうか。いかがでしょう。

武藤 いいんじゃないですか、多数決で。2票、1票、1票の場合も、2票の学校が代表ってことで。

沢谷 1票ずつとか2票ずつの場合は、どうしましょうか。  
武藤 どうしましょう。

法月 その場合は、また話し合うしかないでしょう。もしくは、あみだくじ、とか。

武藤 ですね。

法月 ま、一回、やってみましょう。

沢谷 それでは、みなさん、お書きください。

それぞれ、投票用紙に○をつける。  
沢谷、回収する。

沢谷 それでは、読み上げます。西高、北高、南高・・・  
東高・・・あれ、1票ずつですね。

法月 まいったな・・・

沢谷 さて、どうしましょうか。

法月 あの・・・ちよっといいですか。うちの学校、今年、

創立100周年なんですよ。

沢谷 そうなんですか、おめでとうございます。

法月 それでね、まあ、箔をつけるということじゃないんですかね、もしよかったら、任せてもらえないかな、と思うんですが。

沢谷 もう一度、話し合いまししょうか。

法月 しかしさすがに1票ずつですと、みなさんの立場をはっきりさせないと、議論にならないんじゃないでしょうか。

沢谷 無記名投票にした意味がなくなります。

君島 あ、そっか。

法月 もう一回、投票やるのは、どうでしょう。

沢谷 どういうことですか。

法月 ですから、投票を、もう一度やるんです。

沢谷 変わりますか？

法月 変わるかもしれません。

沢谷 変わりますかねえ。

法月 もう一回やりましょう。早く決めて、飲みに行きましよう。せっかく年一回の飲み会なんですから。いいですか。みなさん、自分の高校に入れるのは、原則ですよ。わかっています？

君島 もちろん。

法月 沢谷先生もいいですね。

沢谷 もちろんです。

法月 武藤先生、よろしいですね。

武藤 ええ。

法月 じゃあ、もう一回、やりましょう。投票用紙、ありますか。

沢谷 一応、予備も刷っておきました。

法月 さすが、沢谷先生。

沢谷 みなさん、いかがでしょうか。もう一度、投票するというところで、よろしいでしょうか。

君島 いいですよ。僕は。

沢谷 先生は？

武藤 わかりました。

沢谷 じゃあ、もう一度、やってみましょう。

法月 ダメですからね、自分の高校に入れるのは。

沢谷、紙を全員に配る。沢谷、紙を回収して、

沢谷 では、二度目の投票の結果です。西高、北高、東高、

東高・・・

法月 え？ちよっと、待って。そんなはずは、ありません。

沢谷 いえ、本当です。（と投票用紙を渡す）

法月 （投票用紙を見る）あれれ？

法月 書いてるでしょ、自分の高校。

君島 書いてませんよ。

法月 書いてるでしょ。

武藤 書きませんよ。

法月 じゃ、どこ書きました？

武藤 え？言います？

法月 いいでしょ。別に、ねえ。

沢谷 せっかく無記名投票に。

君島 僕は、西高さんがふさわしいと思いました。

法月 え？ああ、そうですか。

君島 もっとウチも精進しなければと、西高さんの上演をみて思いました。

沢谷 私は、二回とも北高さんにさせていただきました。戦争について考えることは、とても大事だと思いますし、ぜひ、県大会でも堂々と上演してもらいたい、と思いました。

法月 じゃあ・・・

君島 二回目の投票で東高さんを書いたのは、お二人ですね。

法月 ちよっと、武藤先生、

武藤 いや、だって二回目は、法月先生だって、東高って書かれたんでしょう。

法月 それは、だって・・・

武藤 お恥ずかしい話、あの舞台が3・11をモチーフに

していることに、気が付いていませんでした。しかし、沢谷先生からお話しをうかがって、ストーンと腑に落ちました。ああ、なるほど、と。多くの生徒たちが変わりにくい、難しいというほど、今の生徒にとって、すでにあの出来事が過去のものになっている現実を知りました。戦争は二度とあってはいけないと生徒たちは言うし、それを聞く私たちも、それを高校生らしいと表現します。しかし原発は今も動いている。原発事故は二度とあってはいけないと言うことが、言いにくい世の中なんっておかしい。いいじゃないですか、それで補助金がもらえなくなっても。そんなことを気にするのはやめましょう。

法月　しかしね、現実問題、

武藤　（さえぎって）ぜひ、堂々と上演してください。

沢谷　ありがとうございます。

君島　よろしく願います。

武藤、君島、拍手する。

沢谷　法月先生も、応援してくださいって、ありがとうございます。います。

法月　え？

沢谷　だって、先生ですよ。もう一票、うちに入れてく

れたの。

法月 いや、僕は、その、

沢谷 ありがとうございます。

武藤 いつもの店でいいんですね。

沢谷 はい、いつもの店、予約しておきました。

武藤 じゃあ、私、一回、自宅に車置いてから向かいますので、いいですか、先に出て。

沢谷 じゃあ現地で。

武藤 すいません。(退場)

沢谷 先生は？

君島 車、学校に置いてきました。

沢谷 じゃあ、一緒に、行きましょう。

君島 帰りは、代行ですか？

沢谷 いや、私、下戸です。飲めないんですよ。

君島 そうですか。

沢谷 法月先生も、いいですよ、一緒に行く感じで。

法月 お願いします。

武藤 じゃあ、またのちほど。

君島 失礼しまーす。

武藤、いなくなる。

沢谷 さて、じゃあ、私も支度してきます。ちょっと、お



待ちください。すぐにまいりますので。

君島 わかりました。

沢谷、いなくなる。

君島 西高さん、残念です。すごく面白かったです。

法月 南高さんって書いたんですよ、一回目は。

君島 ありがとうございます。

法月 それでね、東高さんがね、自分とを書いたと思っ  
てね、だから、念を押したでしょ？自分の高校、書  
いたらダメだって。

君島 自分とこは、やっぱりかわいいですものね。

法月 そしたら、東高さんも、きつとうちを押してくれ  
だろうって思って、それでも万が一、かぶったらい  
けないと思って、絶対にならないと思った東高って書  
いたんです。

君島 そんな、自分のとこなんて、書かないですよ。みな  
さん。教師なんですから。

法月 教師は、そういったことは、しませんか、やはり。

君島 しませんよ。普通だったら。というか、先生だって、  
教師でしょ。

法月 あ、そっか・・・なんで、疑ったりしたんだろ。

君島 本当は先生、どこの高校の上演がいいと思ったんで

すか。

法月 わが校です。

君島 いや、自分とこ以外で。

法月 そりゃあ・・・南高さんかなあ、やっぱり。

君島 じゃあ、先生が変えなければ、よかったんですよ。

そしたら、二回目も同じ結果でしょ。

法月 まさか、北高さんが、東高さんって書くとは思わな

いでしょ。だって、ずっと一緒にやってきてるんですよ、顧問・・・創立100周年なんですよ。

君島 ですから先生のとこ、僕はすごく評価してますから。

そんな顔しないでくださいよ。ニコラス君がいるじゃないですか。きっと大丈夫ですよ。

法月 ニコラスだって、そのうちそのうち卒業しちゃうじゃないですか。

君島 僕らはいつも、見送るばかりですよね。教員の仕事っていうのは、いつだって、そうです。

法月 いいこと、言いますね。

君島 ありがとうございます。

法月 少し、元気になりました。

君島 北高さんも、よかったし、どこの高校の上演も、僕はとてもよかったと思います。というか、演劇部の顧問になって、演劇って楽しいなって気づきました。ようやく。大学の頃のあいつ、どうしてるかなあ。

法月 ああ、テントで芝居していたって？

君島 はい。今もやってるかなあ。

法月 検索してみたらどうですか。もしやっていたら、名前、出るんじゃないですか。

君島 そうなんですけどね、できないんですよ。なんか。

沢谷 戻ってくる。

沢谷 じゃあ、行きましょうか。

法月 お願いします。

君島 4 fishes will drink.

沢谷 sはつけなくていいですよ、この場合。

君島 だって、複数形ですよ。

沢谷 つかないんですよ、魚は。

君島 じゃあ、4 fish will drink?

沢谷 ええ、それでいいでしょう。私たちは、だって、演劇部の顧問ですから。

君島 そうですか、sはつかないんですか。

沢谷 はいつきません。

君島 そうなんですか、へー、sはつかないんですか。

沢谷 ええ、つかないんですよ、sは。

やがて幕。